

## 河上但馬守遺跡



国道11号線、赤之井川の西に小さな祠がある。河上但馬守を祭る小さな祠で、古くから吃音を治す神様として地元の信仰を集めています。

1582年、川之江城主河上但馬守は、三島神社に詣でての帰り道、村松の松原（八綱浦）において、上分の轟城主大西備中守の急襲をうけ、吃音のため助けを呼ぶことができず打ち取られたという伝説が残っている。

このとき、但馬守の娘の年姫は、父のあとを追って、川之江城の断崖より白馬にまたがり燧灘（ひうちなだ）に身を投じ、はかなくも生涯を閉じたという悲話伝説も残っている。川之江城の駐車場の手前に「姫ヶ嶽」の石碑があり、その前には、「姫ヶ嶽 海に身投ぐる いや果ても うまして入りぬ 大名の娘は」という与謝野晶子の歌碑もある。また、河上但馬守の墓所と年姫の供養塔が、川之江城の麓にある仏法寺に残されている。